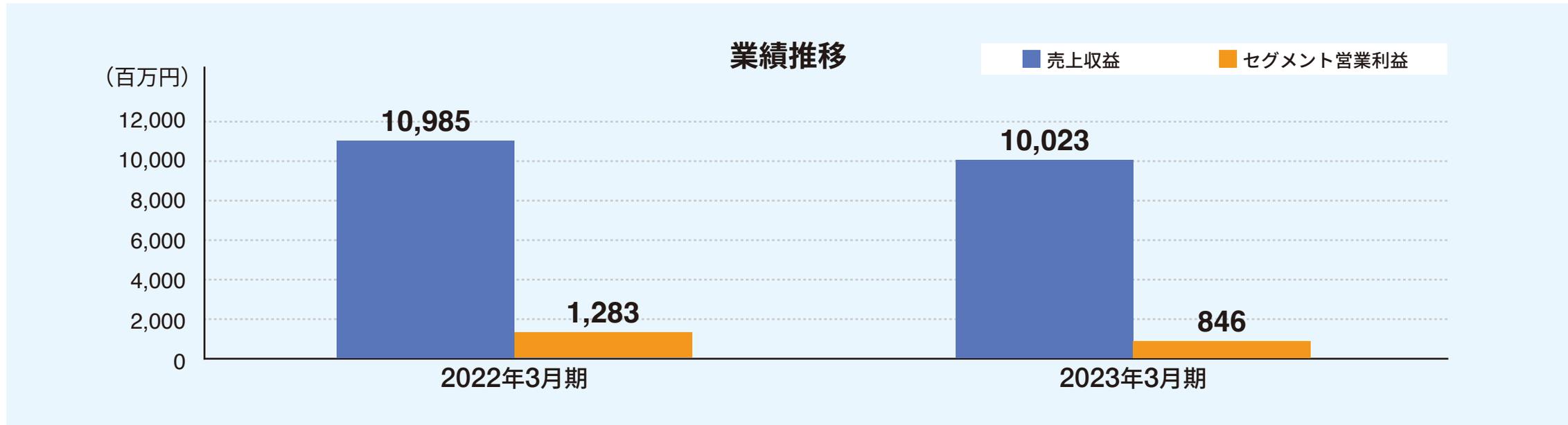




2023年3月期 事業報告
ティアック株式会社



■ **ハイエンド オーディオ機器 (ESOTERICブランド)**

- ターンテーブル、アンプ、SACDプレーヤーなど多数の新製品を上市。輸入ブランド製品も寄与し増収。

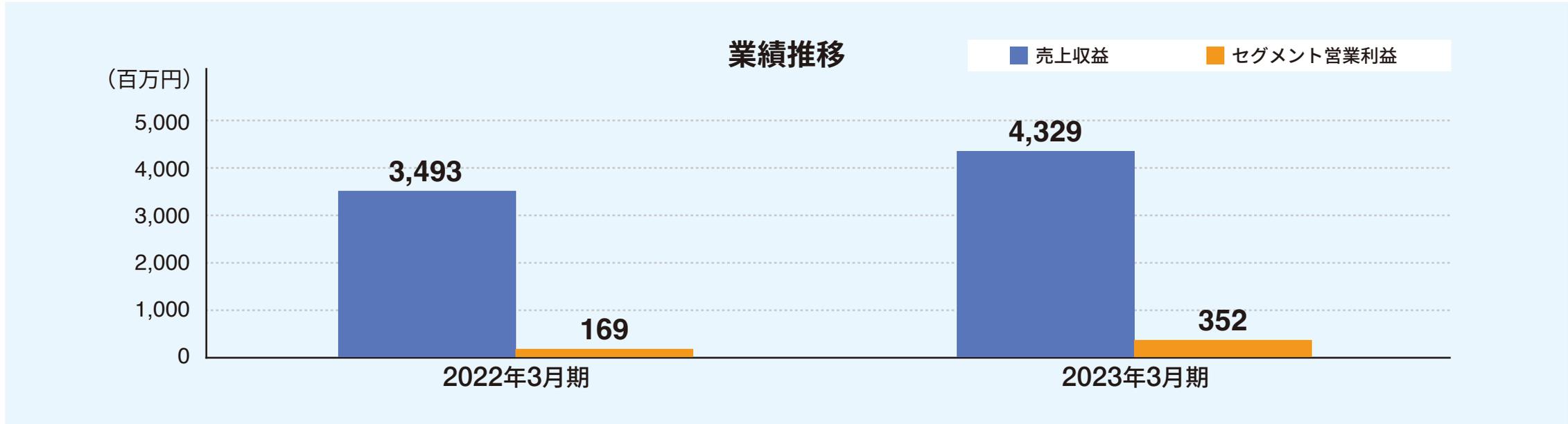
■ **プレミアム オーディオ機器 (TEACブランド)**

- インフレや資源価格高騰などが消費者心理に影響を与え、普及価格帯製品の売上が減少し減収。

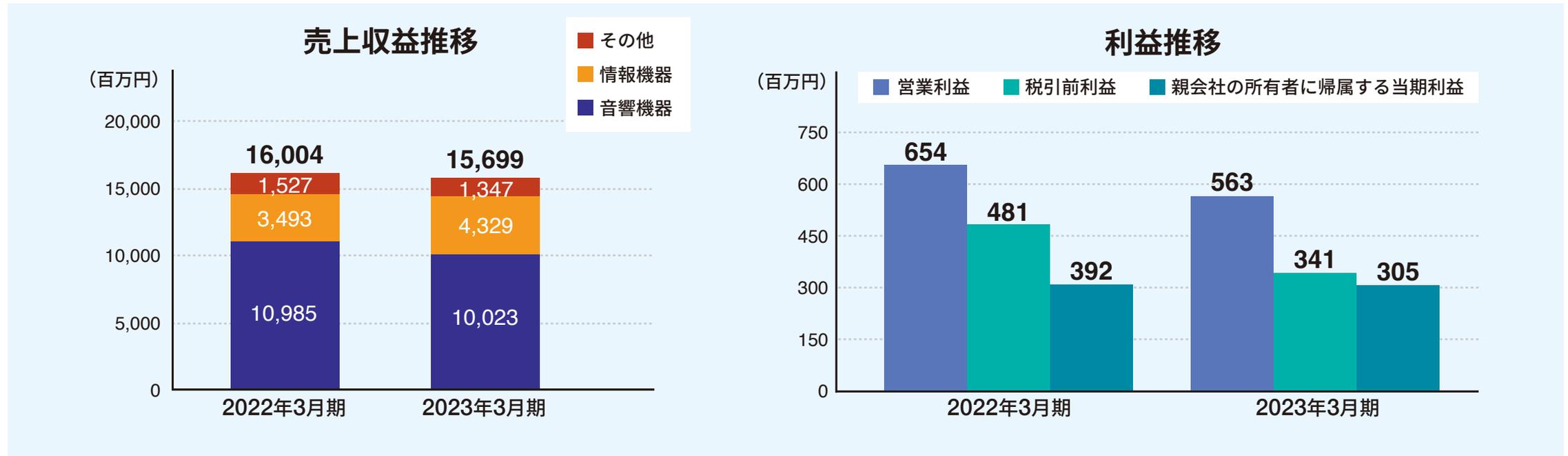
■ **音楽制作・業務用オーディオ機器(TASCAMブランド)**

- BtoB事業: 業務用デジタルミキサー等の新製品効果にて増収。
- BtoC事業: ハンドヘルドレコーダーの新製品効果も、巣ごもり需要の反動減により全体で減収。
- 音楽制作・業務用オーディオ機器全体では減収。

■ **音響機器全体で減収減益**



- **計測機器:** センサーおよびデジタル指示計において、半導体製造装置市場の好況により増収。
- **医用画像記録再生機器:** 消化器内視鏡向けレコーダー、手術画像用レコーダー共に好調を維持し増収。
- **機内エンターテインメント機器:** 海外向け保守用部品が好調。また新型コロナウイルスの終息に伴い、エアライン向け機内エンターテインメント用サーバー回復にて増収。
- **情報機器全体で増収増益**



■ 売上収益・営業利益

コロナ禍において低調に推移していたBtoB事業が回復傾向にあるものの、半導体を中心とした電子部品の調達難と前期の巣ごもり需要で好調であったBtoC事業の反動減により、売上収益および営業利益は前期と比較して減少。

■ 親会社の所有者に帰属する当期利益

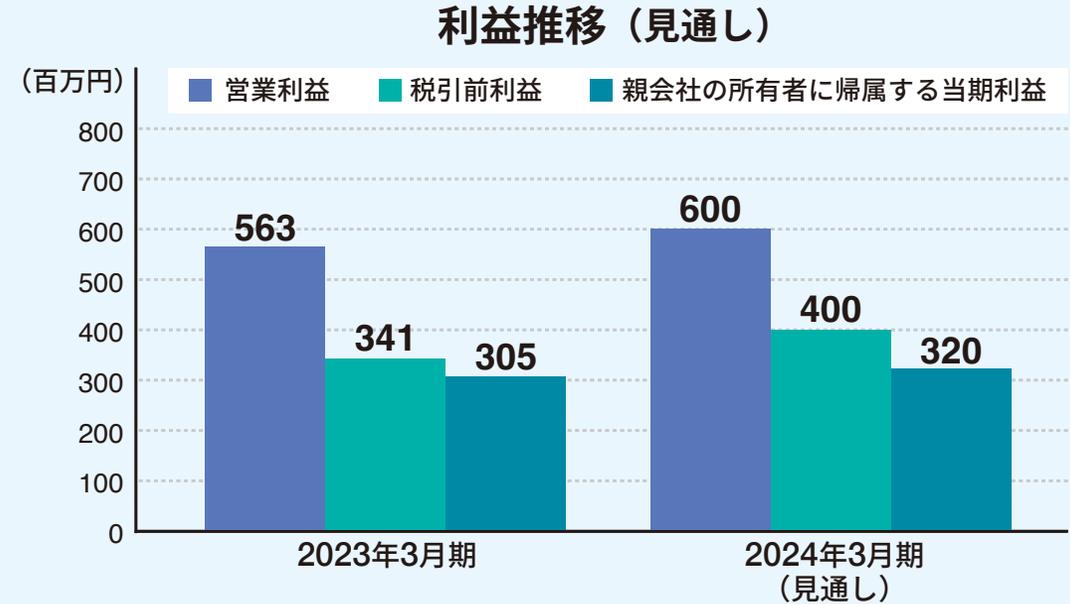
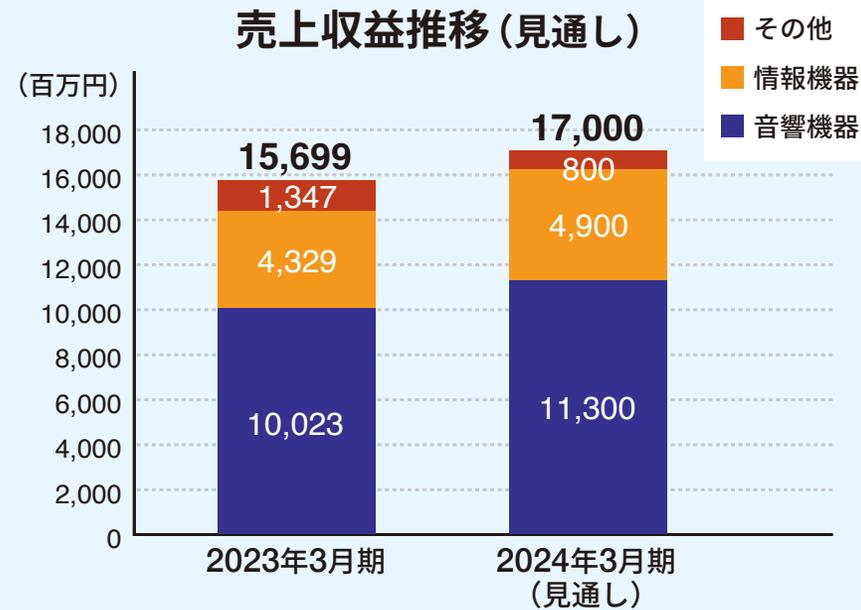
為替相場の変動に伴い為替差損を52百万円計上し、親会社の所有者に帰属する当期利益についても前期と比較して減少。

資本合計推移



■ 第75期末の資本合計は3,112百万円

主として本業の業績回復に加え、為替の円安に伴う海外子会社純資産の増(為替換算調整勘定)等により資本合計は増加し、親会社所有者帰属持分比率も28.4%と改善。



■ 外部環境

- ウクライナ危機の継続、インフレの長期化、金融不安、投資停滞、為替変動等の世界景気の不確実性、事業環境の不透明さは増加。

■ 連結業績の見通しは増収増益を見込む

- 外部環境を十分配慮し、2025年3月期を最終年度とする中期経営計画「B-7030計画」を策定。
- 次期においては新製品の適時導入と製品ポートフォリオ再編の加速、比較優位性が高い製品の価格改定、販売体制の再構築を進め収益力を向上し、2025年3月期の中期経営目標達成への戦略投資の原資確保および実行を確実なものとする。